

令和3年度 学校自己評価書 (川南町立山本小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実に努める。 ・家庭教育の支援 ・個人面談等を生かした子育て不安等の解消	・個人面談や、ssw等と連携を図った家庭教育の支援を推進する。 ・家庭教育学級の研修会等で子育て支援を図る。	3	3	・夏休みに全児童の保護者と個人面談を行い、保護者の願いや悩みを聞き、助言や支援を行った。 ・家庭教育学級で、SNSやLGBTの講演会を実施し、子育てに役立つ情報提供を行った。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ・地域的人的、物的資源の積極的な活用 ・家庭と連携した健康教育、食育の充実 ・地域学校協働活動推進委員会を生かしたPTA活動の活性化	・学校と家庭、地域との連携を図った行事等の推進を図る。 ・地域学校協働活動推進委員会や学校運営協議会からの助言を生かした取組の推進を図る。	3		・保護者や地域の人に、生活科・社会科・家庭科・総合的な学習の時間等の講師を依頼した。 ・養護教諭からの保健便り、外部講師を招いての食育授業のホームページでのお知らせ等とおして、家庭へ健康教育・食育の啓発を行った。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ・学校図書館活用の充実 ・町立図書館との連携 ・ファミリー読書の推進	・図書主任を中心に、町図書事務と連携し、図書室等の読書環境の整備と充実を図る。 ・学年に応じた読書指導を計画的に進め、必要に応じ、町立図書館の活用を行う。 ・読み聞かせやファミリー読書に積極的に参加させる。	3	3.3	・図書主任と町図書事務が連携し、使いやすい学校図書館の設置に努めた。また、今年度は、図書購入候補の図書を展示し、全児童から読みたい本の希望をとり、図書を購入した。 ・町立図書館から、2か月に1回各学年の発達段階に応じた団体図書貸出を受けた。 ・6月と11月には、ファミリー読書期間を設け、家庭で読書に親しむ機会を設定した。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・「分かった、できた」と児童が自信をもって言える授業改善及び家庭学習の充実 ・GIGAスクール構想に向けたICTの活用	・少人数を生かした授業を推進し、個々のニーズに応じた指導方法の工夫改善を行う。 ・CRT、各単元テスト等を分析し、対策を講じ、実施する。 ・ICT利用環境を整え、個別に最適で効果的な学びを支援していく。	3		・夏休みの学力向上研修で、全ての学級における授業や家庭学習の課題を明らかにし、授業改善及び家庭学習の充実の手立てを考えた。手立ての一覧を全職員に配付するとともに、1月には改善状況の確認をした。 ・全国学力学習状況調査やみやぎさくさく小中学校学習状況調査、各単元テスト等を分析し、復習が必要な単元の課題を準備し、学力の定着を図った。 ・研究主任が中心となり、タブレット等ICTを活用した効果的な指導方法についての研修を何度も行ったことにより、教職員のスキルが向上した。授業でも積極的に取り入れている。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・「山本小当たり前のこと3か条」の指導を中心とした基本的な生活習慣の定着 ・いじめの未然防止及び自他の生命を大切にす道徳教育及び人権教育の推進	・3か条(あいさつ・返事・履物並べ)については、学校内とともに家庭と連携した取組になるよう啓発していく。 ・教育相談アンケート及びハートフル委員会の活動を通していじめの早期発見、解決に努める。	3		・山本小当たり前3か条は、学校ではほぼ実践できるようになっている。しかし、家庭や地域でのあいさつはまだ不十分なので、家庭にも啓発しながら、継続的に指導を行っているところである。 ・毎月実施している教育相談アンケート及びハートフル委員会をおして、いじめの早期発見に努めている。「いじめ」と認識できるケースはほとんどないが、教育相談等とおして望ましい人間関係が醸成できるように指導・助言を行っている。
4	特別支援教育を推進する。 ・校内組織の充実及び関係機関との連携 ・個別の教育支援計画、指導計画の共有及びその活用	・特別支援コーディネーターを中心に、校内研修を実施し、職員の意識を高めるとともに、関係機関との連携を推進する。 ・特別支援教育の視点を生かした、ポジティブ行動支援及び学校全体で行う組織的支援の充実を図る。	3		・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を構築しているところである。また、誰もが実態に応じた指導・支援ができるように校内研修(事例研)にも取り組んでいる。 ・病院・スクールカウンセラー・宮崎県発達障害者支援センター・特別支援学校等と連携し、児童の指導・支援にあたっている。 ・特別な教育的支援が必要な児童については、個別の教育支援計画・指導計画を作成し、指導にあたっている。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・「ふるさと学習」の充実 ・「みどりの少年団」の活動の充実 ・川南町(山本地区)ならではの行事への積極的な参加の推進	・「ふるさと学習」において、体験的な活動や問題解決的な学習を行う上で、地域や地域人材との関わりを重視する。 ・4～6年生参加のみどりの少年団の活動を地域に広げ、年間を通して充実させていく。	4		・新型コロナウイルス感染症により、地域の行事は中止になり、児童は参加の機会がなかった。 ・登り口奴踊り保存会に協力を得て、全児童が奴踊りを継承し、保存会の方々と一緒に運動会を発表している。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間で地域人材や地域素材を活用し、地域の一員としての自覚を高めている。 ・みどりの少年団活動で花を育てたり、校内や山本地区コミュニケーション周辺の清掃活動に取り組んだりしている。一人一鉢で育てた花は、家庭やコミュニケーションに飾り、家庭や地域を明るくしている。
6	キャリア教育を推進する。 ・幼保小中との連携を図り、キャリアパスポートの活用 ・学年の発達段階を考慮したキャリア教育の見直しと計画的な実施	・児童が作成したレポートや作文などの記録をしっかりと残り、活用していく。 ・「目指す児童像」を明確にし、発達段階に応じた「かかわる力」「見つける力」「追究する力」「見通す力」の実践化に努める。	3		・生活科や総合的な学習の時間に、川南保育園との交流活動を行った。 ・社会科や総合的な学習の時間には、地域人材を活用し、様々な仕事への理解を深めた。 ・行事に向けての抱負や行事後の感想などをキャリアパスポートに記入させ、発達段階に応じた「かかわる力」「見つける力」「追究する力」「見通す力」の育成に努めた。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・GIGAスクール構想に向けたICTの活用 ・ICT活用指導力の向上 ・ALT活用による国際理解教育の推進	・ICTを活用した分かりやすい授業の実践をした。児童自らがICTを活用して「主体的・対話的で深い学び」の機会を増やしたりする。 ・外国語活動におけるALTとの連携を図り、国際感覚をもたせ、コミュニケーション力を伸ばす。	4		・今年度、一人一台のタブレットが配付され、児童も発達段階に応じて使用することになった。校内だけでなく、GIGAスクールサポーター等を活用した研修を重ね、職員のICT活用指導力は向上した。 ・週1回のALTと連携した授業により、児童の英語によるコミュニケーション力は向上している。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・教職員の業務の軽減 ・教育活動の質の改善 ・コンプライアンス遵守の徹底	・留守番電話の設置や文書等のデータベース化及び校務支援システムの活用を図り、児童と向き合う時間を確保する。 ・OJTを機能させ、共同研修や個人研修を充実させる。	3	3.5	・留守番電話が設置された。個人の携帯電話等での保護者とのやり取りが制限されたことを保護者に伝えたことにより、夜間や休日の電話対応が減った。また、文書等をデータベース化したことで、業務の軽減を図ることができた。 ・年に2回のコンプライアンス研修を始め、毎週の終業でコンプライアンス遵守の徹底を図った。今年度、コンプライアンス違反に係る案件はない。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実 ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底 ・安全に関する危険予知・回避能力の育成 ・安全教育・防災教育の充実	・児童が主体的に行動できる実践的な感染対策や防災教育等を推進する。 ・敷地内の環境について、職員、児童の目線で安全点検を実施する。	4		・毎朝の検温、マスク着用、手洗い、うがい、こまめな消毒・換気等は児童にも定着している。また、毎日、職員による教室内外の消毒も行って、感染対策の徹底は図られている。 ・避難訓練、集会や放送等による安全指導等とおして、危険予知・回避能力の育成が図れた。職員についても、危機管理意識が高まっている。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ・学校体育の充実による体力向上 ・地域スポーツ団体との連携や国民文化祭への参加の推進	・「体力向上プラン」を基に、分析結果を生かした体育の授業の充実を図る。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域スポーツ団体との連携は図れなかった。体育だけではなく、プロジェクト委員会が計画した昼休みの「みんなで遊ぶ日」などを実施し、遊びとおとした運動の推進を図り、スポーツに親しむ意識を高めた。 ・全児童が国民文化祭・芸術文化祭に向けた作品に取り組んだ。	3	3	・体育主任が作成した体力向上プランを全職員で共有し、各学年の実態に応じた運動を取り入れながら体育の授業を構成し、体力の向上を図った。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域スポーツ団体との連携は図れなかった。体育だけではなく、プロジェクト委員会が計画した昼休みの「みんなで遊ぶ日」などを実施し、遊びとおとした運動の推進を図り、スポーツに親しむ意識を高めた。 ・全児童が国民文化祭・芸術文化祭に向けた作品に取り組んだ。